
令和元年 第3回 高千穂町議会定例会会議録(第2日)

令和元年9月3日(火曜日)

議事日程(第2号)

令和元年9月3日 午前10時00分開議

- 日程第1 報告第5号 平成30年度高千穂町財政健全化判断比率の報告について
- 日程第2 報告第6号 平成30年度公営企業等に係る資金不足比率の報告について
- 日程第3 議案第62号 令和元年度高千穂町一般会計補正予算(第2号)
- 日程第4 議案第63号 令和元年度高千穂町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
- 日程第5 議案第64号 令和元年度高千穂町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)
- 日程第6 議案第65号 令和元年度高千穂町下水道事業特別会計補正予算(第2号)
- 日程第7 議案第66号 令和元年度西臼杵地域介護認定審査会特別会計補正予算(第1号)
- 日程第8 議案第67号 令和元年度高千穂町介護保険特別会計補正予算(第2号)
- 日程第9 議案第68号 令和元年度高千穂町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)
- 日程第10 議案第47号 平成30年度高千穂町一般会計歳入歳出決算認定について
- 日程第11 議案第48号 平成30年度高千穂町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第12 議案第49号 平成30年度高千穂町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第13 議案第50号 平成30年度高千穂町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第14 議案第51号 平成30年度西臼杵地域介護認定審査会特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第15 議案第52号 平成30年度高千穂町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第16 議案第53号 平成30年度高千穂町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第17 議案第54号 平成30年度高千穂町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について
- 日程第18 議案第55号 平成30年度高千穂町国民健康保険病院事業会計剰余金の処分及び決算の認定について
- 日程第19 議案第56号 高千穂町上水道給水条例の一部改正について
- 日程第20 議案第57号 高千穂町下水道条例の一部改正について

- 日程第21 議案第58号 高千穂町印鑑条例の一部改正について
日程第22 議案第59号 高千穂町職員の給与に関する条例の一部改正について
日程第23 議案第60号 高千穂町消防団条例の一部改正について
日程第24 議案第61号 高千穂町保育料条例の一部改正について
-

本日の会議に付した事件

- 日程第1 報告第5号 平成30年度高千穂町財政健全化判断比率の報告について
日程第2 報告第6号 平成30年度公営企業等に係る資金不足比率の報告について
日程第3 議案第62号 令和元年度高千穂町一般会計補正予算（第2号）
日程第4 議案第63号 令和元年度高千穂町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
日程第5 議案第64号 令和元年度高千穂町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）
日程第6 議案第65号 令和元年度高千穂町下水道事業特別会計補正予算（第2号）
日程第7 議案第66号 令和元年度西臼杵地域介護認定審査会特別会計補正予算（第1号）
日程第8 議案第67号 令和元年度高千穂町介護保険特別会計補正予算（第2号）
日程第9 議案第68号 令和元年度高千穂町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
日程第10 議案第47号 平成30年度高千穂町一般会計歳入歳出決算認定について
日程第11 議案第48号 平成30年度高千穂町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
日程第12 議案第49号 平成30年度高千穂町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第13 議案第50号 平成30年度高千穂町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第14 議案第51号 平成30年度西臼杵地域介護認定審査会特別会計歳入歳出決算認定について
日程第15 議案第52号 平成30年度高千穂町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
日程第16 議案第53号 平成30年度高千穂町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
日程第17 議案第54号 平成30年度高千穂町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について
日程第18 議案第55号 平成30年度高千穂町国民健康保険病院事業会計剰余金の処分及び決算の認定について
日程第19 議案第56号 高千穂町上水道給水条例の一部改正について
日程第20 議案第57号 高千穂町下水道条例の一部改正について

午前10時00分開議

○事務局長（甲斐 順生事務局長） 御起立をお願いいたします。一同、礼。

御着席ください。

議長の許可を得ていますので、暑い方は上着をお取りください。

○議長（工藤 博志議員） これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1. 報告第5号

日程第2. 報告第6号

日程第3. 議案第62号

日程第4. 議案第63号

日程第5. 議案第64号

日程第6. 議案第65号

日程第7. 議案第66号

日程第8. 議案第67号

日程第9. 議案第68号

○議長（工藤 博志議員） 日程第1、報告第5号から日程第9、議案第68号までの報告2件、補正予算議案7件及び行政報告、合計10件を一括議題として質疑を行います。

また、質疑をされる方は、議会申し合わせ事項を遵守していただき、さらに議案番号並びに答弁者を指名して質疑を願います。質疑ありませんか。磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） それでは、議案の第62号高千穂町の一般会計補正予算についてちょっとお尋ねいたします。

教育長にちょっとお尋ねしたいんですが、今回、こども水泳大会のほう中止となりまして、今年度予算で45万円の運営費ということで上げられておりました。7月の時点で中止が決定いたしまして、新たに第1回高千穂町小学生水泳大会が、今度、主催が高千穂町の水泳協会が主催として実施をするというところで、この予算書を見ますと、今のところ新たな事業としての予算は上がっていない状況であります。

9月21日に大会が開催することが決定しております。水泳協会のほうも、今、お金がないという状況でありますので、9月21日の大会に最低限必要なものがプールの使用料、あるいは必要によっては、水質が悪ければ水の入れかえということで、十数万のお金がかかります。9月ということで迫っておりますが、もしこの予算がなければ、彼らは自分たちのお金を出し合ってや

るような形になります。

なお、運営に当たっては、もうボランティアという形で、一切余分なお金というか、そういうのを削ってでもやりたい。子供たちの夢を、この1年中止することで絶つことがないようにということで、指導者、あるいは関係者が熱い気持ちで大会を立ち上げました。この運営について、今回補正上がっていませんけども、どのような形で支援をしていくおつもりでしょうか。よろしくをお願いします。

○議長（工藤 博志議員） 教育長。

○教育長（濱田 琢一教育長） 教育長。こども水泳教室等につきましては、これは歴史的にも57年続いているものでございます。このたび中止という決定を、苦渋の決断だと思いますが、したわけでございます。理由につきましては、働き方改革等々ありますが、そこについて、今回、そのような形で実施されることになりました。

こちらでできることは何かというと、子供たちが水泳大会に参加するわけですから、当然、そういった意味で子供が参加する大会でございますから、その補助等については考えていきたいというふうに思っております。

多分、最初のうちは参加される子供たちから参加費を取ろうという考え方はなかったかと思いますが、補助をすることによって参加する子供たちへの徴収する金額がなくなったのではないかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） 防災無線で大会開催に対する放送が流れていました。参加は無料ということで流れております。ですから、参加費を取らないということは、大会運営をする側としては町のほうに期待をしているというところであろうかと思えます。

ちなみに、前回、45万の用途については、今までこども水泳大会実行委員会、この組織については、先生方の組織だと聞いております。用途で、今までは学校側が車を借りて来ていた分で、そこに20万ほど。先生たちの日当といいますか、その日に出ていただいた先生方への日当なんかも十数万。水泳のプール使用料が8万。水の入れかえに4万というところで上がっています。もう9月21日に大会が迫る中、そこまでに教育委員会のほうには担当者から、このぐらいかかりますよというところで話がいっていると思います。この大会を開くに当たって、それだけのお金が要る。できれば今のうちにこの、この場といいますか、早いうちに、大会までに何とかめどをつけていただいて、大会が無事にスムーズに行われるように、町としても支援をいただきたいと思いますが、いかがでしょう。

○議長（工藤 博志議員） 教育長。

○教育長（濱田 琢一教育長） 教育長。磯貝議員の言われるとおりでございますが、担当の方が教育委員会に来て、そしていろんな打ち合わせをしております。その中で、先ほど言いましたように、参加費が無料になったという経緯もございますから、今後、そういった意味では支援していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 教育次長。

○教育委員会次長（河内 晴彦次長） 教育次長。ただいまの質問について、ちょっと補足説明をさせていただきますと思います。

当初予算では、例年どおり学校教育のほうで組んでおりますので、そちらのほうの予算で先に払っておくということが可能です。12月の補正等で金額が確定した時点で計上しまして、そちらのほうに科目を補正するという形で支出できますので、問題はないというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） 中止になりましたというのを聞いたのはいつでしょう、教育長。

○議長（工藤 博志議員） 教育長。

○教育長（濱田 琢一教育長） 教育長。正確には期日は覚えておりませんが、6月ぐらいではなかったかなというふうに思っております。その後、保護者等への説明がなかなかできていないということでしたので、担当のほうにプリント等で保護者にしっかりと理由を説明するようにということ指導したことはございます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） 6月にお聞きになったということですけども、それ以降、中止って、それで終わらせているということが私は信じられないんです。今、小学生、中学生、高校生の一部が一生懸命毎日水泳をやっております。私もたまに見に行って、ああ、みんなの成長しているなという姿を見ております。

そこで、指導者がびっくりしたと。要は、学校長、学校の実行委員会で中止になった。それを、自分たちにも話が来ない。中止決定してから自分たちに話が来た。教育委員会にも決定してから話が来たというところで、子供たち、自分たちの働き方改革を考えるだけで、子供たちの1年間できなかった、2年間の競技がないということに対する思いとか、ほかにどこかやってくれるとこないだろうか。聞いた時点で、じゃ、この補助45万円を、新たにやろうという水泳協会ができたときに、そこでそっちに切りかえるということはすぐにできなかったんでしょうか、教育

長、お願いします。

○議長（工藤 博志議員） 教育長。

○教育長（濱田 琢一教育長） 教育長。それではお答えいたします。

高千穂町のこども水泳大会というものにつきまして、これは行事でございますから、全て学校の校長の職務権限の中にありますので、教育委員会がそれをやめろとか、しなさいという権限は全くないところでございます。

そして、町内の各小学校の代表児童が集まってやる競技でございます。全員が参加するわけではないということ。結局、小学校の4年生、5年生、6年生の児童の全員が集まって、そして泳力とか体力を競い合う大会ではないということです。

それともう一つは、小学校4年、5年、6年につきまして、25メートル、50メートルの自由形及び平泳ぎで、1人当たり2種目まではできるということですから、自由形とリレーが出られますが、その間、今度はほかの方々、子供たちが待っておく状況があるということ。

そして、一番大事なことは何かというと、やはり全員が出るわけじゃなくて、高千穂小学校でいえば、4年生は3割ぐらい、5年生が50%ぐらい、6年生が54%ぐらい。押方小学校につきましても4年生は参加をしない。5年生が60%、6年生は100%、全員は参加しないという状況にあるわけです。

働き方改革で、やはり今、先生方の勤務時間が非常に長い中で、何を削っていけばいいんだろうかと。すると、夏休みも削りましたし、それからいろんな時間数も削っていきましたが、最終的にはやはり残ってくるのは行事とか会議とか、こういったものを精選しないと学校としてはやっていけないんじゃないかということ。

したがって、学校長が集まって、そういう判断をしたんだろうというふうに思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 磯貝助夫議員。

○議員（3番 磯貝 助夫議員） 働き方改革、あるいは水泳大会の、今回、私は一般質問でまた教育長のほうにはお話を聞きたいと思っておりますので、この辺にしておきたいんですが、要は、この大会を支援をしていただきたいという気持ちで今回発言させていただいております。また、その予算が組まれてなかったということに、こんだけの6月に決定がしてから、この間に、ここに補正でなぜ上がってきてなかったのかなという疑問がありましたので、きょうは質問させていただきました。

もう9月21日、もう日もありません。今回については1年生から6年生を対象に、学校に文書を流して、その中で出場者を求めているという状況です。どちらにしても大会運営費がない中で、強行にも進んでいるというところを、教育長、あるいは町としても考えていただいて、ぜひ

とも支援をいただくようによろしくお願いして終わります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 教育長。

○教育長（濱田 琢一教育長） 教育長。磯貝議員の指摘にありましたとおり、支援につきましては、また考えてやっていきたいと思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑はありませんか。板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 2番、板倉です。同じく、議案第62号補正予算について、財政課長にお尋ねしたいと思います。議案集の710ページです。710ページ、財産管理費のところでは法務局の改修工事や電気工事の予算として504万5,000円の予算が上がっております。全協で概要の説明はあったわけですが、改めてこの予算の説明をお願いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） 財政課長。板倉議員の御質問にお答えいたします。

法務局の改修費用についての御質問ですが、6月補正で予算をお認めいただきまして、その後に入札を執行したわけなんですけれども、不落に終わりました、改めてどの辺に差があったのか、積算を見直したところ、電気機械設備工事のほうがちよっとこちらの見積もりと実際の業者さんの積算のほうに開きがあったということで、その電気設備工事につきましては別発注にしようということで、今回、当初の予算額から電気設備の部分を除いて、別に予算として上げております。

そしてまた、新たに建築工事のほうでも見直しましたところ、防火シャッターをつけなければならないということが建築基準法で義務づけられていることが判明いたしまして、その分の工事費等を見ているところです。

なお、電気機械設備につきましては、少し当初より増額になったんですけれども、事務室の照明器具しか計上していなかったものですから、相談室、休憩室、更衣室等の器具についての照明工事等も見ているところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 追加で確認なんですけれども、6月の予算が894万9,000円でした。今回、2件に分かれているんですけれども、合わせると504万5,000円の予算になっております。これ、つまり法務局の改修予算として、6月と今回のものを合わせた1,399万4,000円になるという認識でいいのかどうかお尋ねしたいと思います。

す。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） 財政課長。合計額でお願いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） ごめんなさい。ちょっと聞き取れなかったんですけど、私の認識で合っているということによかったのでしょうか、もう一度お願いします。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） 財政課長。認識どおりでお願いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） ということだと、当初894万9,000円だったものが1,399万4,000円ということで、当初の1.56倍になったということになります。何事も多少の誤差があっても仕方ないのかなと思うんですけども、その1.56倍の誤差というのは、ちょっと通常の範囲を超えているのかなというふうに感じます。

今の課長の説明で、当然必要な予算だとは思いますが、やはり当初の説明の金額と変わってくると、結局は行政不信につながってしまうというふうに考えています。

東京オリンピックが非常にいい例でして、最初は7,300億と言っていた予算が、今では3兆円ということで、非常に東京オリンピックについて、最初は歓迎していたような人も、非常に不信感を持っている人が今ではふえてしまったのかなというふうに、個人的に感じています。

こういったことは、結局、そういった行政不信につながりかねないというふうに思っています。やはり最初の見積もり段階でしっかりとした金額を出すべきだと思っています。

財政課長にお伺いしたいんですけども、こうした事態にならないように、再発防止のために何かお考えがあればお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） 財政課長。私たちも事務屋でございますので、建築の細かいところの中身につきましては、よく詳細のところについて詳しくありませんので、建設課の建築係のほうと打ち合わせをして、追ってその見積もりを相互に確認しながら作業をしているところでもありますけれども、やはりその確認作業というものがいま一つ不十分だったことがこのような事態になったかなと思って、非常に反省をしているところであります。

これから、そういうふうによその課に対して、その業務の一部を委託する場合につきましても、十分な打ち合わせをしながら、今後進めてまいりたいと思っています。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） ぜひ十分な協議等お願いできればと思います。

次に、同じく議案書710ページの企画費のところでは企画観光課長にお尋ねしたいと思います。

移住支援金が2件に分かれていますけど、合計で200万の予算が出ております。これ、恐らくといいますか、国が始めた東京圏から移住した人に対する移住支援金と、県が始めた宮崎県外から移住した人に対する移住支援金で、それぞれ町の負担は4分の1というものだと思います。

ただ、私が調べた限りなんですけれども、移住したら無条件でもらえるというものではなくて、ふるさと宮崎人材バンクというマッチングサイトです。求人サイトに載っている求人のうち、かつ支援金対象の求人に就業するか、農林業、または医療福祉事業所などに就業する必要があるということのようです。

そこで、きのうの段階で私がふるさと宮崎人材バンクのページを見てみました。そして、高千穂町で就業可能な求人がどんなものがあるのかを見てみますと、2社の会社が5件の求人を出していました。

ただ、一方、同じくインターネットなんですけれども、ハローワークに出ている求人、追って高千穂町内の求人を調べますと、簡単な検索だけなんですけれども100件ぐらいの求人がありました。

ここで企画観光課長にお尋ねしたいと思うんですが、この移住支援金の制度ができて、町としては活発にこの制度を使うべきだと思うんですけれども、先ほど言ったようなマッチングサイトの求人就業しないといけないというような要件もあります。

ただ、一方、ハローワークの求人が100件くらいある一方で、ふるさと宮崎人材バンクの求人が2社の5件だけというのが今の現状となっています。

移住支援金の事業所は、まだまだ町内にもその要件に合う事業所あるんじゃないかなと思うわけなんですけれども、お伺いしたいのが、町から町内の各事業所に対して、このふるさと宮崎人材バンクのことだったり、あるいは移住支援金の制度についての啓発だったり、情報提供を今現在しているのかどうか。また、もし今していないとして、これからする予定があるのかどうかお尋ねしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 企画観光課長。

○企画観光課長（山下 正弘課長） 企画観光課長。概略は、今、板倉議員がおっしゃったとおりであります。それで、現在のところは、この制度自体も、県のほうでも6月議会で議決をされたことということで、まだ、正直町のほうでもまだ対応をしてないところありますので、おっしゃったように、今後、そのマッチングサイトでありますとか、そういったところの周知啓発には努めていきたいというふうに考えております。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 恐らく、やはりまだまだ知らない人が多いのかなと思いますので、ぜひ周知啓発をしていただければというふうに思います。

同じく、移住支援金の関連で、移住促進の施策について町長にお尋ねしたいと思います。

この移住支援金の制度、大変、町としてありがたいんですけれども、ただ、国の制度であれば、東京圏から移住すれば全国どこでももらえるわけです。また、県の移住支援金であれば、県外から宮崎県に移住してしまえば、どこでももらえる制度ということです。つまり、県外から高千穂町に移住してももちろんもらえますし、あるいは延岡に移住しても宮崎市に移住してもらえるものなのかなというふうに考えています。ということは、移住する側から考えたときに、移住の決め手になるのがこういう移住支援金があるからというのは決め手にならないのかなと。どこに行っても同じわけですので、そこはもう移住するときのメリットではもうないのかなというふうにも考えられます。

つまり、移住する側からすると、ここに移住したいなと決める決め手が移住支援金プラスアルファの部分になるのかなと思います。例えば、子育て支援が充実しているとか、教育に力を入れているとか、医療が充実しているとか、そういったことになるのかなと思うんですけれども、町長にお伺いしたいのが、町長も公約として移住のところはおっしゃっておられたかと思います。今回の移住支援金の制度もあるんですけれども、その移住支援金のプラスアルファのところ、今後移住施策、どのようなものを考えているのか、お考えがあればお教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 町長。板倉議員の御質問にお答えしたいと思います。

確かに国県の施策によりまして、移住支援金が出るということでもありますけれども、私は基本的なスタンスといたしましては、お金を出せば来てくれるといった、そういった永住というのは長続きしないんじゃないかというふうに思っております。もちろんそのプラスアルファの部分が一番大事かなというふうに思っております。例えば、移住支援金が出るからということで、金銭的な部分の優位性を生かして、そこに飛びついて移住してきた方というのは、もしかしたら将来的には高千穂町の文化とか、そういったことに合わず、地域の皆さんとうまくいかず、長続きしないということも考えられます。

私どもといたしましては、今、一滴の会さん等に委託をしながら、事前に住宅の紹介、あるいは地域の皆さんとのマッチング、地域の文化をよくちゃんと理解していただいた上で移住をしていただくということをメインに据えて、そういった皆様であればウエルカムだということで考えて移住を促進していきたいというふうに考えております。

プラスアルファの分につきましては、おっしゃったとおり、子育て支援であるとか、あるいは一番は高千穂の土地柄、そして地域性、あとあるいは人、そういった皆さんがウエルカムな雰囲気

気で、しっかりと地域に、地域全体として受け入れるという、そういったことをやっていく必要があると思っておりますので、地域の皆さんに、今から、これからの地域を考えていくといういろいろなディスカッションを地域でやっていただこうと思っているんですけども、そういった中で、やっぱり外から人が入ってきていただくということを受け入れることについて、前向きになっていただいて、ちゃんと地域全体で受け入れようという、そういった雰囲気をつくっていくということが大事だなと思っております。そういったところについて、今から力を入れて、地域の皆さんとともに、そういった受け入れ体制をつくっていきたいと思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 先ほど、町長の答弁にありました地域の人がみずから考えて、受け入れ体制をつくっていくという考えでしたけれども、本当に私も前の議会で、人口ビジョンのところで質問させていただいたんですけども、やはりなかなか行政だけでできることと、行政だけでできないことがあります。特に、この移住については、やはり移住を受け入れるのが地域の人ですので、地域の人がみずから考えて受け入れ体制をつくっていくということは本当に必要だなと思っておりますので、ぜひそちらも進めていただければというふうに思います。

次に、行政報告、初日の町長の行政報告について質問をしたいと思えます。

行政報告の中で、旧高千穂鉄道の施設を活用した鉄道公園化構想について発表がありました。その件についてお伺いしたいと思います。

まず、説明の中に概算の事業費として10億円ということがありましたけれども、この10億円の内訳についてお教えいただければと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 町長。御質問にお答えしたいと思います。

今、ちょっと詳細な資料が手元にございませぬけれども、10億円の中には、10億円の主な経費につきましては、高千穂鉄橋の塗装、それと耐震化補強、それと歩廊化するための歩道の設置が主なものでございませぬ。

特に、耐震の部分はかなり本格的にやりますとお金がかかりまして、そちらが3億円近くになっていたというふうに認識をしております。

ピアの下部のほうを、薄いカーボンファイバーでぐるぐる巻きにしていくということが必要になってまいります。そちらを除けば7億強ということになります。また、歩廊の設置につきましても、トラスの下の部分、点検通路の部分で拡張する、あるいは線路の横に歩道を設ける、それぞれによって2案ありまして、それによって1億近く実は差があるんですけども、プラスもう一気に両方ともやっ飛ばさうかといひますと、プラスアルファちょっとかかってまいります。

主には、廃線補強関係が3億近く、そして塗装関係が2億6,000万ほど、それ以外につきましては歩廊の設置等に関するものということで考えております。

ただ、塗装につきましては、今ちょっと不確定な部分がありまして、塗膜にPCB、ポリ塩化ビフェニールというのが含まれている、微量含まれております。それを一旦剥がなければならぬのか、あるいは、今、先日、塗装業者さんにちょっと相談に行ったところ、これから先、技術的には古い塗膜を剥がなくても、上から上塗りすることによって封じ込めることができるという技術も今から出てきそうだと。そういったことになれば、大分塗装のやり方によって金額が増減する可能性がございますので、そのあたりについては、今からまたしっかりと塗装の専門、あるいはコンサルタントに相談をしながら進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 確認の質問で、2案、歩廊の部分で2案あるということで、今の鉄橋の横に歩く歩廊をつけるというのと、その下の部分に歩廊をつける案ということなんですけど、そこで1億円の差があるということなんですけれども、確認の質問なんですけれども、その鉄道の下につくるほうが1億円安いということではないのでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 町長。おっしゃるとおりでございます。下のほうが安いということでありますけれども、一応、概算を考えた場合、下に歩道をつくっても、例えば、上に歩廊をついた場合、橋として存続し続けていくためには、やはり構造全体の点検も必要になるということで、下の点検通路も、そこまで拡張しないとしても、現状をもう一回やりかえて、点検通路は維持していくという必要があるということもございますので、どちらにしても下に歩道を整備する、上に歩道を整備するにしても、お互いに下の歩道を設置したときの上の線路の横の通路、これもさびが進んでいるので、いずれ鉄板等のやりかえはしないといけません。上に歩道をつくっても、下にも点検通路はやっぱり今、さびが進んで、とても歩けるような雰囲気になってないので、ちゃんとした歩道を整備するということがありますので、いずれにしても、どちらも手を入れるということになります。ちゃんとした歩道を設置するかということ考えた場合には、下に歩道を設置しただけのときのほうが安いということで見積もりがされております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） また後で決算のときにも同じような質疑をしようと思っております。今ですけれども、今回も決算を迎えまして、それを見ると、現在、高千穂町の財政状況は、結構厳しい状況にあるのかなというふうに思っております。具体的に言いましたら、5年連続で実質

単年度収支が赤字となっていて、基金の取り崩し額は年々大きくなっている状況です。

また、私が思いつく限りでも、今後、しばらくは大型の事業が続くということになるろうかと思えます。

例えば、南平団地のC棟もあります。あるいは、今度、防災無線のデジタル化ということもあります。また、今年度の予算で上がりました小水力発電も実際取り組むということになれば、これもやはり億単位の予算になるのかなというふうに思っています。つまり、大型事業が結構続いている。今後も続くのかなというふうに思っています。

その状況によって、この10億の事業というのがさらに高千穂町の財政状況を逼迫させるのではないかというふうに思っております。

そこでお伺いしたいんですけども、なぜこのタイミングでの鉄道公園化なのか、現在、取り組んでいる大型事業が落ち着いてからではだめなのかどうかについてお伺いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 町長。御質疑にお答えします。

議員の皆様御存じのとおりだと思いますけれども、高千穂鉄道施設の整備基金です。施設撤去のために県、延岡市、日之影町、高千穂町で平成22年度から——23年度から来年度までにかけて、10年間をかけて、延岡から高千穂間の旧高千穂鉄道施設、路線等の施設撤去のための基金の使用、利用期限が来年度までということになっております。今、その基金を利用するというので、基金の事業計画には上がっております。そして、その基金を使いまして、高千穂鉄橋以外の跨道橋ですね、道路をまたぐ橋、それと駅舎等につきましては撤去しますということで、今、上がり続けております。そして、来年度、最終年度前に、高千穂町としてどうしますかということ、今までも何度も聞かれているわけでありましてけれども、もうちょっと判断を待っていただきたいということで、先送りさせていただいて、今、32年度、令和2年度に撤去しますということで上がっております。

この計画が、実は県、延岡、日之影、高千穂町の来年度の基金の積み立て計画、そういったことにも影響してまいります。これが、来年度、最終年度を前に、そろそろ判断をしないと、本当に撤去しなければならないというような、そういった期限を、最終期限を迎えます。

そういったこともありまして、県、あるいは延岡、日之影町にも、これ以上先延ばしいたしますと迷惑をかけるという部分もありますし、また、県のほうに対しても、その使わなかった部分についての精算を前向きに考えていただけないでしょうかという議論を今しているところであります。まだ、高千穂町だけで判断できるものではなく、基金の精算等につきましては、県の条例で定められている部分でありますので、高千穂町が主体となってどうこうと言えるということはないんですけども、前向きに検討していただければ、そういったお話も一部にはあるという

こともあり、そして、さびが年々進んでいるといった状況を考えたときに、これ以上先送りはできないということで、今回、公表させていただいたといった経緯でございます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 基金もあるのでという説明だったんですけども、なぜ今のタイミングかというところでは、今の説明でわかったんですけども、追加でお伺いしたいのが、今回の事業が、今現在、歩廊を下につくるか上につくるかの2案はあるということなんですけれども、どちらにしても概算の事業が10億ということになろうかと思えます。

お伺いしたいのが、今回の事業が10億の案しかなかったのか、あるいは塗装だけするような3億円以下の案はなかったのか、なぜ今回の10億円の案になったのか、お考えがあればお教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） お答えいたします。

塗装だけで3億円かけるということについては、何も収益が上がらないような状況を見越しての3億円というのは、とてもかけることができないなというふうに考えております。当然、投資をして、それを回収できるという方法を考えていかなければ、とても投資はできないというふうに考えております。

そういった中で、せっかくある資産をどういったふうにご利用していけば、莫大な投資を回収できるか、それを考えた場合、やはりあそこを乗り物が走り、そして人が歩くことができる、そういったほかにはない観光資源とすることによって、十分に10億円というお金を回収できるというふうに見込んでいるからこそ、それだけのお金をかけるということを考えてわけでございます。

今、あまてらす鉄道さんには年間5万2,000人のグランド・スーパーカートに乗るお客様がおられ、入場料だけ考えれば、入場者数は5万4,000人ということでありますけれども、グランド・スーパーカートというのは、1日に乗れる人数に限られるわけでありまして、当然、取れるお金も上限があるわけです。

高千穂鉄橋を歩くということになれば、1日に何百人ということに限らず、何千人という方が歩いていただける可能性がある。そういったことを考えたときに、あそこを歩廊化してするという整備がぜひとも必要だと。そうすることによって、10億円という投資も回収できるということを見込んだからこそ、そういった計画になったということでございます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 町長の選挙時の公約をもう一度見させていただいたんですけど

ども、もちろんこの高千穂鉄橋の歩廊化についてもきちんと選挙時の公約に書かれております。それ以外にも、例えば、ユネスコエコパークに登録された自然を活用した森林公園の整備であったり、子供が遊べる公園の整備、大規模遊具の設置、あるいは図書館を備えた多目的文化ホールなども上げられていたかと思います。

今回、それらのほかの公約に先んじて鉄道公園の構想を発表されたということは、町長の中でもやはり今回の鉄道公園は優先順位が高いものだったということによろしいでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 町長。そのとおりであります。今、高千穂町は観光客も非常にふえてきているというところがございます。グランド・スーパーカートを使った高千穂あまてらす鉄道さんについても年々ふえている。さらに、車両を増強して、乗ることができる人数を倍にするということで、高千穂鉄道につきましては、高千穂にはなくてはならない観光資源として認知されてきているというふうに思います。

高千穂鉄橋の歩廊化、また、高千穂峡などの観光地に人が集まり過ぎることによる渋滞の発生等を考えた場合、やはり郊外に新たな観光地をつくる、そして、高千穂町が観光地としてさらに頑張っていくことによりまして、日之影町、五ヶ瀬町、あるいは延岡エリアまで波及効果があると、今、まさに頑張る時期ではないかというふうに思ったところであります。

また、この歩廊化につきましては、私も総合政策室長時代に検討を詳細にしてきた経緯もございます。ぜひとも今実現をさせていただきたいという思いで、今回、公表させていただきました。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） インターネットで調べた限りの情報になるんですけども、高千穂鉄橋は1969年から建設が始まり、1971年に完成したそうです。つまり、建設開始から既に50年、完成してからでも48年が経過しています。

一方、鉄骨造の橋梁の減価償却資産の耐用年数を調べてみたんですけども、こちらが40年ということだそうです。もちろん減価償却が終わったら使えなくなるというわけではなくて、減価償却終了後も使用できる事例は幾らでもあるんですけども、ただ、当然、永久的に使うということとはできないわけです。今は大丈夫とは言っても、例えば、10年後、20年後はどのようなかっていうのが、ちょっと現時点で私が何も情報を持っていないわけですけども。今の段階で、例えば10億かけて10年後、20年後に使えなくなってしまうということがあっては、これは非常に大きな損失ではないかなと思います。

そこで、高千穂鉄橋の実際の耐用年数を何年までもつと見ているのか、もしそういった情報があればお教えいただきたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 現時点で、あと何年もつってという情報は私も実は持ち得ておりません。ただ、ここ四、五年の間、コンサルさん等に入っていて、さびの状況、そして歩廊の設置が可能かどうか、強度的に大丈夫か、群衆で歩いた場合に耐えるかという構造上の強度の計算等につきまして、あとは耐震のシミュレーション等もやっています。そういった中で十分に大丈夫だということで回答を得ておりますので、あと四、五年でだめになるとか、そういったことは考えておりません。あと20年とかは大丈夫だろうというふうに考えております。これは私の判断でありますので専門的なことに基づくものではありません。

歩廊化した場合に、私は最低でも8年程度では回収できるというふうに考えておりますので、十分に投資効果はあるというふうに見込んでおります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 今現時点であと何年もつかっていうところがわからないという状況なんですけれども、もし今後、例えば30年後、40年後とか、本当に使えなくなった場合に、もちろんそのときはまた町長も変わっているのかなと思うんですけれども、構想として、現時点での鉄道公園を始めるときの構想として、今の高千穂鉄橋が使えなくなった場合の想定というものがあるのかどうか。そして、使えなくなったときにどうするか。具体的には、もうその時点で取り壊すのか。あるいは、町みずから、また新しい鉄橋を建てるのかという、そういった、現時点で構想があればお教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 現時点では、そこまでの構想は持っておりません。

ただ、8年で投資を回収できるっていうのは、最低限それぐらいの方は来ていただくと今は見込んでいますけれども、例えば、九重の“夢”大吊橋等も視察に行かせていただきまして情報収集させていただきましたけれども、あちらは開業からかなりたっても年間60万人程度の集客で安定しているということでございました。年間3億円ほどの収益を上げ、1億円は借金の返済に、そして1億円は人件費等に、そして1億円は基金に積んでいるということでございました。それだけ、うちとしてもできるだけ収益を上げていって、そのための基金等の創設も必要なのかなというふうに考えておりますけれども。

そういったことによって将来、もし、私の考えとしては、人気ある観光地としてあり続けていくと。そして、将来、そういった状況が続いていけば、架け替えといったことも将来的な構想としてはあるのかなというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） すいません、ちょっと聞きとれなかったんでお教えいただきたいんですが、今、町長がおっしゃられた年間60万人の集客と3億円の収入があるという事例は、その辺、どちらの事例だったかをもう一度お教えください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 九重町にあります“夢”大吊橋の視察したときの状況であります。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） ありがとうございます。

またちょっと別の質問になるんですが、今回の構想は、新たな観光地として集客の拠点にするほか、雇用の創出につなげたいというお考えも述べられていました。

鉄道公園を整備したのちに、実際、その公園を何人体制で運営されていくのか。つまり、鉄道公園によって生まれる雇用が何人と見ておられるのか。現時点でのお考えをお教えください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 今、具体的な雇用の人数については、まだまだ事業構想を詰めていく中でこれからということになるかと思えます。“夢”大吊橋、見させていただいた時には、料金回収業務であったり、駐車場の整備業務であったり、あるいは、あそこはJAさんがお土産店を出していたり、あるいは飲食店については、直営のところと外部から入ってきていただいているところがあるというふうにお聞きをしております。

合わせますと20人から30人の雇用は生まれていたというふうには思っているんですけど、今ちょっと、すみません、詳細な資料がございませんけれども、そういった付帯施設といいますか、そういった部分をどう考えていくかっていうことについては、まだまだこれからでございますので、そこをどこまで詰めていくかによって、どういったものをつくっていくかによって、新たな雇用創出人数っていうのは変わってくるかと思えますので。できるだけ雇用を生む、ちゃんと運営ができる、そういったバランス感覚も考えながら、詳細なことを詰めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 集客のところを質問したいんですが、先ほどから8年で回収できるということでした。その根拠になるのが、現在、高千穂町の入り込み客数は、大体年間150万人ということで、そのうちの20%の30万人を予想しているというお話だったと思います。

この150万人のうちの20%の根拠について、もしあればお教えください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 明確な根拠っていうのはないんですけども、高千穂橋から高千穂神社、そして天岩戸神社と、周遊をされるお客様がたくさんいらっしゃるわけでありまして、三田井から岩戸の間に新たな観光施設ができるということについては、20%程度であれば、私は最低でも思っておりますけれども、それぐらいの方はお立ち寄りになるんだろうというふうに思っておりますし。また、逆に高千穂鉄橋を歩いてみたいんだということで、そちらメインで来られるお客様もいらっしゃるというふうに、私は期待をしております。そういった中で最低でも20%は来ていただけるんじゃないかといった、そういった判断の中で、そういった数字を出させていただいております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 今回の町長の答弁で、最低でも20%の30万人来るんじゃないかというお話でした。ただ、これも私の個人的な考えなんですけれども、150万人のうちの20%の30万人というのは、かなりハードルが高い数字ではないかなというふうに個人的には思っております。

例えば、現在の高千穂橋のボート、昨年度、最高艘数を達成したということで聞いております。ざっくりと6万3,800艘として、かつ全てのボートに3人が乗ったとして6万3,800に3を掛けると、19万1,400人になります。高千穂町の観光施設で恐らく一番人気があるのが高千穂峡のボートだろうと思うんですけども、高千穂峡のボートで多くみても19万1,400人。つまり150万人を分母としたときの13%しか来ていないということになります。

ただ、もちろんボートは乗りたくても乗れないというような状況もありますので、もしそういう上限がなければもっとふえるんじゃないかということも考えられるんですが。ただ、だからといいですか、高千穂峡にある高千穂町で一番観光客が集まっけて非常に立地のいい高千穂町の淡水魚水族館なんですけれども、こちらが年間の入館者数が2万783人ということで、150万人を分母としたとき1.4%しか来ていません。

また、天岩戸神社さん、ある程度統計をとられているそうで、話を聞いたら、大体年間の参拝客が21万人から30万人ということで考えておられるそうです。非常に天岩戸神社、人気がある観光地で、いつ行っても人が多い状況を見るわけですが、天岩戸神社でやっと150万人のうちの20%が来ているということになります。そういったことを考えると、150万人のうちの20%の30万人っていうのはかなり高い数字になるんじゃないかなと思うわけなんですけれども。

改めて町長にお尋ねしたいと思っておりますけれども、20%の30万人が本当に可能なかどうか、

お伺いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 板倉議員のおっしゃったとおり、ボートにつきましては、乗りたくても乗れないという状況がかなり影響しているというふうに思います。9時間半待ちといったことがゴールデンウイーク中に発生いたしましたけれども、あと、天気によって増水するというときにも乗れないということがありまして、それで19万1,400人ということについては、かなり頑張っているなあというふうに思います。

岩戸神社につきましても21万人から30万人というお話がありましたけれども、もうちょっと来ているんじゃないかなという気もしなくもないんですけれども、そういった状況かなと思いましたが。

淡水魚水族館につきましては、魅力っていうところをどう創出するかっていうところでもっと上げないといけないと思っておりますけれども、私は天岩戸神社とかいうところよりもボートのほうに待ってでも乗りたいと思っただけなのは、やはり、今から先は体験型の観光というのが必要だというふうに思っております。そういった、見て参拝するといったことよりも、何かわくわくドキドキ体験するという、そういったことが観光資源としては魅力あるものになると思っております。そういったことを考えたときには、高千穂鉄橋を景色も見ながら、そして私の構想としては、たまには張り出したところとか、下が見えるところとかも当然つくりたいと思っております。そういった部分にぜひ行ってみたいという方は、私は岩戸神社等よりも断然多いんじゃないかなと。これから先の体験型観光の魅力ということを考えたときには、そういうふうに見込んでいるところであります。ぜひとも、板倉議員は心配をさせていただいておりますけれども、その心配を裏切る形でたくさんの方に来ていただきたい。そのように思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ここで、11時10分まで休憩します。

午前11時00分休憩

.....

午前11時10分再開

○議長（工藤 博志議員） 休憩前に続き、会議を開きます。

板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 現在、あまてらす鉄道がスーパーカートを運行していて、それが非常に人気が出てきたということでの今回の鉄道公園の事業だと思うんですけれども、または、あまてらす鉄道は、あくまでも一民間企業になります。民間企業ですので、将来の経営状況によってどうなるかわからない。でも、やはりあるのかなと思います。まあ、私が一番心配している

のが、やはりああいう乗り物ですので事故のリスクになります。大阪の遊園地でもやはり人命にかかわるような事故を起こしたために、そのまま廃業してしまった遊園地等もあります。そういったことで、今後スーパーカートがどうなるのかという点、不明なところもやはりあるのかなと思います。

町長にお伺いしたいのは、あくまでも仮の話にはなるんですが、スーパーカートが何らかの形で事業から撤退した場合、鉄道公園だけを残すのか、あるいはスーパーカートの事業がなくなったら鉄道公園ももうやめるのか、そういったお考えについてお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） グランドスーパーカートにつきましては、確かに民間でやっていただいているわけでありまして、高千穂あまてらす鉄道さんにつきましては、高千穂の鉄道跡地を残すんだという強い思いのもとに会社を立ち上げ営業されているわけでありまして、早急に今の運行をやめるといったことは、立ち上げの経緯、考え方からしてそう……、よほどの理由がないとやめられるということはないというふうに考えております。

仮にですけれども、やめられるということになっても、私どもにつきましては、あくまでも収益の中心は高千穂鉄橋を歩いていただくというところでの入場料収入を考えておりますので、それは運営は続けていけるというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） いずれにしましても、あまてらす鉄道との連携というものが必要不可欠だと思います。今回、鉄道公園化の、鉄道公園化について、あまてらす鉄道側との協議を既に行っているのか、あるいはこれからするのか、そのあたりをお教えください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 鉄道公園化の協議の方向性につきましては、これまでもあまてらす鉄道側との協議はしてきております。

ただ、線路を使って乗り物を走らせているという状況の中で、私の思いとしては、線路敷きを走らせているということで、施設の使用料という形であまてらす鉄道さんからはいただきたいというふうに思っております。月額の基本料プラスお客様の入りによっての率を掛けて、そういった形で利用料という形でもらえる方向で今話をしておりますけれども、鉄道公園自体の運営の母体をどうするかっていうところについての協議、検討というのもまだ方向性がちゃんと定まっておきませんので、そういったところも定めながら、また協議を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 本当にまだまだ詳細に検討する事項はあると思いますので、私
がちよっと30万人の集客が厳しいんじゃないか等、意見申し上げたわけですがけれども、そのあ
たりの詳細な予算といたしますか、事業の、事業がきちんとうまく行くように今後検討をお願いで
きればと思います。

以上で終わります。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） 5番、安在です。今のにちょっと関連してお聞きしたいんです
けれども、町長の行政報告で言われた10億円かかるということで、回収、年間30万人という
ことで、1億3,000万で、大体8年ぐらいで回収ということなんですが、確かに先ほど言わ
れたように、九重の大吊り橋、ここは2006年ぐらいにできてますけれども、大体できた当時
から1年後ぐらいには約200万人ぐらいの集客数で、今現在が大体50万、60万弱だと思
います。入場料を500円取ってますので3億円という、先ほど町長が言われた金額と大体合うん
ですがけれども、高千穂鉄道が果たしてそれだけの人員が来るかというのは、ちょっと、板倉議員
ともにちょっと私も心配しているところでありまして、まず、一遍に行かれるんじゃないかと、例
えば歩道だけを先につくられて、どのぐらいの集客数があるのか見られてから進められても遅く
はないなと思うんですけれども、いかがなものでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） そうですね、全て全体の施設を一遍に整備するというのはなかなか難
しい部分があるかなと思います。ただ、塗装と歩廊の整備っていうのは一緒にやる必要があると
いうふうに思っております。やっぱりああいう橋梁でございますので足場工事とかそういったも
のがありますし、塗装だけ先にやって歩廊を後からやるとか、あるいは歩廊を整備して塗装を後
からやるっていうようなことは、足場等の整備あるいは資材の搬入等のことから考えたときに無
駄になる部分が多いというふうに考えておりますので、歩廊の整備と塗装については一気にやっ
てしまいたいと考えております。

耐震補強につきましては、本当に阪神大震災レベルの地震を想定して必要だということであり
ます。実際、熊本地震が発生しても何ら影響はなかったということを考えたときには、その部分
の投資は後からでもいいのかなと。ただ、周辺の施設につきましては駐車場、そして駐車場への
アクセス道、このあたりについてはどうしても多くの皆さんに来ていただきたいということを考
えた場合には整備が必要かなと。その部分については、ほかの事業等も活用しながら、10億
円とは別にちよっとかかってくるということになるんですけれども、その部分についても駐車
場の整備、それとそこに入ってくる道というのについては、やっておかないと多くのお客様を受け

入れることが逆に難しくなるというふうに考えております。それに関するお土産物屋さんであるとか、そういったものについては後から検討していくということで大丈夫ではないかと考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） 考えは、私も反対するわけじゃないんですけども、非常に今、高千穂で集客、集めるのに一番手っ取り早いところは本当、鉄道かなとは思いますが。急遽こういう話が上がってきたものですから、ちょっと私もびっくりしたんですけども。今言われたように駐車場、報告会のおきも駐車場の問題言われてましたけど、つり橋のほうはちょっとネットで見てみると大体バス30台に乗用車250台ぐらい集めるということなんですが、今のあまてらす鉄道を見ても、例えば単独で行かれる方とか、それからあまてらす鉄道に乗ってそのまま歩道に行かれる方というふうにおられると思うんですけども、そこあたりの駐車場を先に整備しなきゃ本当に人は来ないと思うんですけども、かなりのまた費用が要るんじゃないかなろうかと思えますけれども、そちらも一遍にされるのか徐々にされるのかお伺いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） あまてらす鉄道さんのほうの駅の近所の駐車場については早急にはまだ考えておりません。高千穂鉄橋を歩かせるということで考えておりますので、鉄橋の周辺の駐車場整備というのはあわせてやっていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） わかりました。

続けるとなると、例えばさっき、取り崩しの基金の話が出たんですけども、来年まで積み立てるんだということなんですけど、もしこれ高千穂が継続ですということになると、この基金というものはどういうふうに、延岡、日之影もかかっていると思うんですけど、これはこのまま残しておかれるということなんですか。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 基金の取り扱いにつきましては、実は先日、課長会、課長レベルの会合がありまして、うちは総合政策室長が出席しておりますけれども、高千穂町としては今まで計画に上がっている駅舎、あと道路をまたぐ橋ですね、高千穂鉄橋以外の橋については撤去計画から削除するというので、そういう方向で話を進めたいという表明はしております。

ただ、今後それを正式に承認をいただくのは、副市長、そして副町長レベルが集まる会合があります。そこで正式に決定を承認をいただくということになります。そして、高千穂町の施設が

撤去されないということになった場合には、今後の県と延岡、日之影、高千穂で積み立てている基金の積み立て計画にも影響がありますので、来年度の積み立てをどうするのか、また、お金が余ればその部分をどう清算するのか、そういった議論が出てまいりますけれども、あくまでもその基金は宮崎県で設置している基金でありまして、宮崎県議会の承認を得て設置されているものでありますので、県議会議員の皆様方にも御審議をいただきながら、こういった形で基金を整理する、清算するかというところにつきましては、あくまでも県と延岡、日之影、高千穂での協議ということ、そして県議会の承認を得るということが必要になりますので、高千穂町独自でどうしたいということはなかなか言えない状況であるということでもあります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） じゃあ、来年度までで積み立てが終わった時点で、例えば県議会とかそういうところの承認が得られれば、例えば今度の公園事業化に使用しても、そういう使用もできるということでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 今は、基金はあくまでも施設を整理する、撤去するための基金だという目的が、柱がありますので、そこを簡単に変えるというのは難しいのではないかなと思っております。

ただ、県のほうで、もしそういったことに使えるというふうに条例改正等が県議会のほうでなされればそういった可能性もありますし、最終的に清算という時点で県のほうが何かしら、高千穂町が頑張るということであれば何か違った形で、余ったお金で支援ができないかということを検討していただくことができれば、それを望んでいるわけですけれども、そのような形で高千穂町の有効活用のほうに使える財源が支援をしていただければありがたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） どちらにしてもちょっと大きい事業ですので慎重に進められて、前向きに進んでいてもらいたいと思います。

それともう一つ、先ほど言いました法務局の問題なんですけれども、この法務局についてはもう余り質問したくないんですけれども、もう何年もやっていますのであれなんですけれども、実際いつも言われるのが、商工会が入るようには決定しました。昨年12月、ギャラリーということで、前町長のときもギャラリーをつくって非常に高い品物ももらえるようになっているんだということでお話はあったんですけれども、それからの進捗状況というのが全然わからないんです

けれども、今現在どういうふうになっているのか。また、3階の問題ですね、こちらが今どうい
うふうに進んでいるのかわかったらお教えいただきたいと思います。町長お願いします。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） そうですね、ギャラリー等につきましては、なかなか管理を誰がする
んだというところがありまして、実際あそこに入居していただく、商工会が入居していただく
ということが決まったわけでありまして、そこであるいはIT関係の企業も入ることが考え
られますというような話もいただいているところでありまして、そういったところの、それ専属
で人材を町の職員を置くということはなかなか考えにくいので、そういった新たにあそこに入居
していただく皆さんとの協議をした中でオープンをさせたいというふうを考えております。2階
部分について、ギャラリー部分についてですね。

3階につきましては、今後、IT関係の企業であるとか、そういった皆さんが希望されている
ところもあります。そういったところで、そういった企業が入ることになりましたら若干
のオフィスとして運営をしていくための改装というのが別でかかってくる可能性があります。た
だ、そこは雇用創出ということで、今県と協議をしているんですけれども、500万程度の県の
支援が、100%の支援が受けられるのではないかなというふうに考えておりますので、その協
議を進めていきたいというふうに考えているところでありまして。また、企業ともぜひ入って
いただきたいということで協議を進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） すいません、商工会さんは何月から入られるんですか。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 早めに入っていただこうと考えておりましたけれども、さらに改造と
いいですか、必要だということでありますので、その工事が終わり次第ということしか言えない
状況でございます。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 財政課長。

○財政課長（佐藤 英次課長） 財政課長。商工会のほうにも入札で工事がおくれますということ
は再三行ってお話をしているところです。商工会さんのほうの希望を聞きましてところ、確定申
告の事務につきましては新しい所でしたということですので、それまでには何とか移転ができ
るようにお願いしたいということで、それを聞いているところでありまして。

○議長（工藤 博志議員） 安在昭則議員。

○議員（5番 安在 昭則議員） わかりました。

じゃあ2階に、ギャラリーにしても商工会が入った時点でもうギャラリーを一応、ギャラリーなりそういったものをするということですね。で、3階については一応、ITさん、まだ入りはわかってないけれども一応こちらのほうを進めるということによろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）わかりました。

終わります。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。中島早苗議員。

○議員（7番 中島 早苗議員） 議席番号7番、中島です。1点だけ教育次長にお伺いします。

一般会計補正予算第62号のページ数、722ページに校舎棟維持改修工事が611万8,000円で上がっております。これはどのような工事内容か教えていただくとありがたいです。

○議長（工藤 博志議員） 教育次長。

○教育委員会次長（河内 晴彦次長） 中島議員の御質問にお答えいたします。

今回、補正で上げております工事は、田原小学校の管理棟、これがちょっと雨漏り等がちょっとひどくなっておりまして、それと渡り廊下、これの改修工事に約458万円、それから押方小学校の国旗掲揚台がちょっと今危険な状態になっておりまして、国旗掲揚台を別の場所に設置して危険箇所の撤去、その工事で154万、合わせて611万8,000円の予算を計上しているところであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 中島早苗議員。

○議員（7番 中島 早苗議員） 私はちょっと田原のほうに行ったときに、田原の方から、すごく校舎のそれこそ雨漏りがすごいひどいということと、やっぱりいろいろ何か不便な部分があるということをお聞きしました。田原小学校は、本当に校舎も古くて、これからさまざま手直しをするところが必要かとは思いますが、やっぱり教育環境という形で、子供たちが学んでいる以上はしっかりとそういった形での整備に取り組んでいただきたいと思います。

以上です。わかりました。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。本願和茂議員。

○議員（6番 本願 和茂議員） 議席番号6番、本願です。同じく議案第62号のページが708ページになります。財産収入、財産売払い収入の物品売り払い収入、消防車両売却収入158万5,000円について、財政課長にお尋ねします。台数と、あと、売却の手順についてお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石淵 敦司課長） これにつきましては、平成30年度に更新をいたしました積載車

4台分の売り払い収入であります。ホームページ等で公募いたしまして、応募のあった方の中から高いところ、4車、4台分を順次売却という形で行っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 本願和茂議員。

○議員（6番 本願 和茂議員） 以前、議運ですか、全協かで競売にかけたということを知ったんですけども、それまではそういう売却をしていなかったというふうに僕は捉えたんですけども、以前まではどういった売却になっていたのかお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石淵 敦司課長） 29年度更新までの車両については、納入した業者に引き取っていただくと、処分をしていただくというようなこと、という形で処理をしておりました。30年度、今までの車両もですけども、実際の車両自体は20年近くたっておりますが、走行距離を見ますと1万キロ前後という形でありまして、非常にしっかりしておりますので、今の段階だったら買っていただく方がいるんじゃないかということで今回競売にかけたということでもあります。

○議長（工藤 博志議員） 本願和茂議員。

○議員（6番 本願 和茂議員） 以前までは納入業者に戻していたという答弁でありましたけれども、今までの納入した台数を売却していれば、もっと消防団に手厚い機材器具が支援できたのではないかなと思っております。

以前、議員の方で操法の用品を支援してくれないかという一般質問された方がいましたけれども、答弁では、やはり消防団としては、火災、人命救助の際の備品の支援しかなかなかできないという答弁であったかと思えます。その中で全国大会等に消防団が出場するとなったときは、滞在費その他渡航費用を町から補正予算組んで支援もしておりますし、装備品についても新たに新調もなされているかと思えますので、少しちょっとずれる部分があるのかなとは僕なりに思っています。

私の団についても小型ポンプでありまして、車両が更新されたときは積載車の給油管がついてきておりまして、町の財産でありますので勝手に譲渡するわけにはいきませんので、他の部に老朽化したのでかえてくれないかということで貸し出している状態になっておりますので、やはり町も何らかの支援をしないと消防団が困っているのが事実ではないかなと思っております。

お隣の日之影町の機材器具を見ると、10年進んでいるなというのが実感であります。ポンプにしろいろんな、車両については古いところありますけれども、やはり士気を高めなければ火災とか人命救助の現場に駆けつける意欲も、その団より少ないのではないかと実際に感じているところであります。

町長におかれましては、数年前まで消防団でありましたし、そういう現場についてはもう認識

されているかと思えますけれども、改めてこういう売却収入が今後見込まれるのであれば、こういった財源を使って消防団に、操法用品限定とはいきませんが、そういった支援をできないか、町長にお伺いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 確かに新たな財源ということで、財源確保につながらないかということと新たにやってみたということでもありますけれども、欲しいという業者さんがいらっしまったのは本当にありがたいなと思います。

新たに160万近くお金が入ったわけですが、上位入賞ということについては、多少の支援もできなくはないのかなとは思っておりますけれども、やはりホース等についても1セットやっぱり10万とか近くかかりますし、それを町大会出場あるいは郡大会出場全てのチームに出すということになると結構なお金になるかなというふうに思います。

装備品について、例えば条件の中に、例えばですけども、ヘルメットのあごひもをそろえなさいとかいったこともあります。そういった部分について操法用として一気に町内の各チームに操法用のヘルメットは新しくお配りしますよとか、そういったことについて、この範囲の中で何とかなるような部分については可能ではないかなというふうに思います。それから、また、消防団のニーズもちょっと把握させていただきながら検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 本願和茂議員。

○議員（6番 本願 和茂議員） 決して機材器具が最新型であるから操法大会に上位入賞するとは限らないかとは思っています。実際に町長の地元の団に関しては、老朽化した車両、そして型の古いポンプで県大会にも出場されてますし、一概には言えないとは思いますが、そういった支援をすることで団の指揮が高まって、より災害の現場、火災の現場に駆けつける団員の気持ちも向上するのではないかと常に思っておりますので、今後、手厚い支援を検討されることをお願いしたいと思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） 8番、馬原です。第62号の補正についてちょっと質問いたします。

まずは、農地整備課長のほうに、ページ数、716ページに原材料費というのが35万上がっておりますけれども、この原材料費というのはどういう名目で使われるんですか。

○議長（工藤 博志議員） 農地整備課長。

○農地整備課長（佐藤 峰史課長） 農地整備課長。馬原議員の質問にお答えいたします。

この原材料につきましては、現在繰り越しにおいて実施しております災害復旧事業において、石灰や生コン等の支給の必要性が出てきたため、今回補正を要望しているものであります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） 予算書を見たら大体、総金額しかわからないんですけど、大体去年の決算見たときに60万ほど災害復旧費で使われておりますけれども、それに充てるということで、その原材料費というのは自主財源なのか、それともやっぱり県のほうから交付金・補助金いただいているのか、どちらかですか。

○議長（工藤 博志議員） 農地整備課長。

○農地整備課長（佐藤 峰史課長） 農地整備課長。原材料の予算については、これは単独になっております。その他の災害復旧事業については、国からの補助をいただいて実施しております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） 原材料費も項目が4つほどありますけれども、その中で災害……、農地と農道関係がありますけど、その辺の予算は、関係はそのまま災害復旧のための補正ということで了解してよろしいでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 農地整備課長。

○農地整備課長（佐藤 峰史課長） 農地整備課長。そのとおりです。災害復旧に関する原材料費となっております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員、挙手をしてお願いします。

○議員（8番 馬原 英治議員） すみません。次に、同じく62号で、これは大体、決算書は財政課に上がっているんですけど、企画のほうになると思うんですけど、718ページ、中段のほうに委託料関係が3件上がっておりますけれども、その中に観光地と高千穂峡関係がありますけど、この28万、29万ぐらいの補正はどういう意味でしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 企画観光課長。

○企画観光課長（山下 正弘課長） この高千穂峡の交通誘導、一番上の観光地誘導警備委託料というのは交通誘導ですが、その後、高千穂峡の駐車場管理業務委託料につきましては、年間契約を町のほうでしておりますけれども、10月に消費税が上がるということで、その分の補正であります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） 企画課長にお尋ねしますけれども、駐車場整備のほうが、観光協会のほうがやめるんじゃないかということで、一応、観光協会のほうも決意をしたような話を聞いておりますけど、その辺で企画課のほうには何か打診か何かありましたか。

○議長（工藤 博志議員） 企画観光課長。

○企画観光課長（山下 正弘課長） この委託料につきましても、昨年までは観光協会のほうに補助金を出して、観光協会のほうで契約をしていた部分でありますけれども、今年度は町のほうで直接契約をするということで、そういった観光協会のお話については聞いておりますので、今そこあたりは協議をしている途中であります。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） これが10%に上がるわけなんですけれども、昨年度の決算見たとき、4,500万円ぐらい、4,800万円の収入で、そして経費が三千二、三百万かかっておりますけれども、やはり観光協会としては、どういう理由で、そちらのほうやめたいということと言われたか、そこら辺は聞いておられませんか。

○議長（工藤 博志議員） 企画観光課長。

○企画観光課長（山下 正弘課長） 一番大きな理由は、道の駅の案内所等もそうですけれども、少し組織をスリムにしたいというか、人員を少し、組織をスリムにしたいということで人員確保が難しいというような理由であったかと思えます。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） 今後は、やはり雇用の問題も含めていろんな問題が出てくると思うんですけれども、慎重に検討されて今後どういうふうやっていくかを検討されると思います。

続いて、手短に、720ページです。総務課長のほうにお伺いいたしますけれども、委託料が中段に536万円ほど上がっておりますけれども、この地域防災に関しては町独自、また、県独自のがあるんですけど、また500万円かけて委託料というのは、この趣旨、これの内容はどうなっているんですか。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石渕 敦司課長） この委託料につきましては、基本的に東日本大震災の教訓を踏まえるということで、平成25年に「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災に資する国土強靱化基本法」というのが公布をされました。これまで災害の発生のたびに甚大な被害を受け、その都度、膨大な費用と長期間をかけて復旧・復興を図るといった事後対策の繰り返しだったという反省を踏まえて、どのような災害が起ころうとも最悪の事態に陥ることがないように

な強靱な行政機能、地域社会、地域経済を事前につくり上げるというものでありまして、国が策定いたしますのが国土強靱化基本計画、地方公共団体が策定いたしますのが国土強靱化地域計画ということで位置づけられております。

今後、この地域計画に基づき、地方公共団体が実施する補助事業等に対して、国が予算の重点的な配分を行っていくということとなっておりますので、本年度中に策定をしたいというふうに考えているところであります。

また、これにあわせまして、平成24年3月に策定いたしました町の地域防災計画の見直しもあわせて行っていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 馬原英治議員。

○議員（8番 馬原 英治議員） やはり防災については、いつ起きるともわからない。ことしの佐賀県の例もありますし、いろんな面で町、県、国と定めておりますけど、今後はやっぱり3つの事業をうまく今後活用していただけるとありがたいと思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。佐藤さつき議員。

○議員（1番 佐藤さつき議員） 1番、佐藤です。補正に関する質問ですが、710ページの真ん中あたりの庁舎管理費の修繕費のところの内容ですが、どのような修理なんでしょうか。財政…、総務課長。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石淵 敦司課長） 修繕料132万7,000円の内訳でありますけれども、庁舎の加圧給水ポンプユニット、これが62万6,400円と、税務課等の上にありますけれども、空調であります。このドレンの修繕が46万5,480円、それから役場関係の漏水修繕が24万ほどかかっておりまして、いわゆる庁舎のもろもろの修繕費用というふうに御理解いただければいいかと思っております。

○議長（工藤 博志議員） 佐藤さつき議員。

○議員（1番 佐藤さつき議員） 庁舎正面玄関入り口の自動扉を開けた次の第2のドアです、手動のやつ。あそこのドアが冷房が入っているとやっぱりあそこは閉めますよね。そうなっているとバリアフリーなんですけど車椅子の方とか、お年、とっても高齢の方とか、ベビーカーの方たちが入って自動扉を開けて入ってきたときに次のドアを開けるのに何か結構苦労されているようで、あそこの内側のドアを気がついた職員の方々が、会計課の方とか正面にいる福祉の方とか気がつけば出てきて開けてくださったりとか、天気、気温によっては開けっ放しにしておいて、そちらを通るようにと誘導してくださったりとかの配慮があるそうなんですけど、あそこのドアを

もっともっと軽いというか、自動ドアにするといいんでしょうけど、中の扉を1カ所は自動ドアぐらいにするといいのかなと思うんですが、ちょっと重くて子供連れの方がドア、子供が後ろからついてきてドアを開けたときにちょっと挟みそうになったりとかいう危険もあったということを知っていますが、そのような報告は入ってないでしょうか。

○議長（工藤 博志議員） 総務課長。

○総務課長（石淵 敦司課長） 今のところドアに手を挟まれたとかそういった事例は聞いておりません。

言われたように内側の開きドアの空調ドアについては、どちらか1カ所をオープンにするようにということでやってはいるんですけども、来られた町民の方がせっかく冷房が入っているのにということで、入られるときにわざわざ気を遣って閉められる方がいらっしゃるということで、そういった締め切った状態になったときに町民生活課、福祉、今言われたようにドアが閉まっているということで片方を開けたりという状況であります。言われますように内側も自動扉にできれば非常にそういった面は改善できるのかなとは思いますが、それこそ費用対効果の問題がありますので、ちょっと検討してみたいというふうに思いますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（工藤 博志議員） 佐藤さつき議員。

○議員（1番 佐藤さつき議員） ぜひ検討をよろしくお願ひします。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、補正予算議案7件について、討論、採決を行います。

初めに、議案第62号令和元年度高千穂町一般会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第62号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願ひします。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第62号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第63号令和元年度高千穂町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第63号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第63号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第64号令和元年度高千穂町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第64号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第64号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第65号令和元年度高千穂町下水道事業特別会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第65号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第65号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第66号令和元年度西臼杵地域介護認定審査会特別会計補正予算（第1号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第66号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第66号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第67号令和元年度高千穂町介護保険特別会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第67号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第67号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第68号令和元年度高千穂町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。議案第68号について、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（工藤 博志議員） 起立全員であります。したがって、議案第68号は原案のとおり可決されました。

ここで、午後1時10分まで休憩します。

午前11時54分休憩

.....

午後1時10分再開

○議長（工藤 博志議員） 休憩前に続き、会議を開きます。

日程第10. 議案第47号

日程第11. 議案第48号

日程第12. 議案第49号

日程第13. 議案第50号

日程第14. 議案第51号

日程第15. 議案第52号

日程第16. 議案第53号

日程第17. 議案第54号

日程第18. 議案第55号

日程第19. 議案第56号

日程第20. 議案第57号

日程第21. 議案第58号

日程第22. 議案第59号

日程第23. 議案第60号

日程第24. 議案第51号

○議長（工藤 博志議員） 次に、日程第10、議案第47号から、日程第24、議案第61号までの決算議案9件、条例議案6件、合計15件を一括議題として質疑を行います。質疑をされる方は、議会申し合わせ事項を遵守していただき、さらに、答弁者を指名して質疑願います。質疑ありませんか。板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 2番、板倉です。議案第47号平成30年度高千穂町一般会計歳入歳出決算認定について、町長にお尋ねしたいと思います。

監査委員意見書の849ページをごらんいただきたいと思いますが、849ページのところを見ますと、午前中も、ちょっと言ったんですけども、この一番下のところ、実質単年度収支が30年度についても赤字となっております、その額が2億3,507万7,180円の赤字となっております。これは、前々回だったですかね、私が一般質問でも議題にした内容になるんですけども、平成26年度からずっと実質単年度収支が赤字となっております、30年度もということで、5年連続の実質単年度収支赤字となっております。つまり、基金を取り崩してやりくりしている状況が、この5年間、続いております。また、基金の取り崩し額が、30年度が最大の額となっております。

もちろん、平成26年から30年度については前町長がかじ取りをされていたわけですし、甲斐町長にその責任があるわけではないんですけども、ただ、この財政状況を引き継ぐ立場の町長として、この5年連続の実質単年度収支の赤字をどう受けとめておられるのか、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 確かに、26年度から連続実質単年度収支については赤字ということでございまして、基金等取り崩しなしにはやっていけないという状況でございます。基金の取り崩し、基金が目減りしているという状況につきましても、早目にどこかで解消していかなければならないということでもありますけれども。どうしても、町営住宅の建てかえ、また、まちづくり

事業につきまして、今、まさにやるべきではないかというところでやっているところでございますけれども。この大型事業が終われば、ある程度、その状況も解消されるのかなと思いますけれども、午前中にありましたとおり、新たな事業にも取り組みたいという意志があるということがあります。

そこにつきましては、私といたしましては、まだ、以前の議会から答弁させていただきながら、なかなか実質に取り組みておりませんが、観光でより稼いでいく上で、ちょうど収益を上げていくということで考えておりますので、今、検討中でありますけれども、新年度に向けまして、駐車場収入、あるいは、高千穂峡、あるいは、ほかの観光施設での、よりお金を稼ぐんだということについて、新年度をめどに、どうやってやっていくかというところを早目に取りかかりをできる…、そして、新たな財源を確保するというところで取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 前々から、基金の取り崩しについては、現在の大型事業が終われば取り崩しの額も減少できるのではないかということだったんですけれども、今回の鉄道公園化の事業等、やはり、まだまだ、大型事業がここ数年は続くのかなというふうに思っております。

そこでお伺いしたいのが、町長の見込みとしまして、今のような大型事業がいつごろまで続くのか、3年後なのか、5年後まで続くのか、10年後まで続くのか。そういったお考えがあれば、お聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 今のところ、何年度までにとすることは、今後の、どこまで新たな事業に取り組むか、高千穂鉄橋を中心としました鉄道公園化事業だけであれば、あと5年後ぐらいまでかなというふうに見込んでおりますけれども、もちろん、先ほど言いましたとおり、それまでに新たな財源の確保ということについて積極的に取り組みながら、基金の取り崩しがなくてもやっていけるという状況をつくり出したいというふうには思っております。

それ以降、私が公約に掲げております事業についても早目に取りかかるということになれば、なお、続くのかなというふうには思いますけれども、できるだけ5年後ぐらいまでに大型事業については終了させ、それまでに新たな財源の確保というところに見通しを立てて、基金の取り崩しなしに事業の運営ができるという体制をできるだけ目指したいというふうに思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 私が、前々回12月の議会で一般質問で質問した内容としまし

て、町の収支について、例えば、町報等で町民に報告する際に、形式収支であったり、実質収支の説明にとどまっていたり、実質単年度収支の赤字については町報に触れていないと。ですので、一般質問で質問した内容として、やはり、町民の皆様に対しても、この実質単年度収支の赤字ということをきちんと説明するべきではないかという質問をさせていただきました。

または、その際の答弁としまして、なかなか、実質単年度収支となったらわかりにくいので、一般の方にはわかりにくいので、町報等ではできる限りわかりやすいように、実質単年度収支までは広報では掲載していないというような答弁だったと記憶しております。ただ、私とその議会の時の議会だよりで、私の一般質問の記事のところでも実質単年度収支の赤字についての説明をさせていただきました。説明といっても、849ページにあるような表を載せただけなんですけれども、それで、実際、町民の方の反応がどうだったかというところなんですけど、今のところ、849ページのような表をわかりにくかったというような声は、今のところ、私としては聞いていません。

むしろ、こういった実質単年度収支の赤字のところまでを掲載して、逆に、初めて、町の財政状況についてわかりましたですとか、きちんとここまで説明してくれてありがとうございますというような感謝の声をいくつかいただきました。もちろん、全ての町民の方の声ではありませんので一概には言えないと思うんですが、間違いなく言えることは、きちんと説明さえすれば、こういう実質単年度収支についてもわかってくださる方がいるということはあるのかなというふうに思っております。

つまり、私の考えを整理しましたら、こういった実質単年度収支の赤字ということについても、町として町報、あるいは、インターネット等できちんと町民の皆様には説明する必要があるのではないかということになるんですけども、そこで、この件について町長にお伺いしたいと思っておりますが、町長自身、職員時代に広報の仕事もされていたというふうに聞いておまして、広報の重要性については十分に理解されていると思うんですけども、例えば、今回の決算について、こうした実質単年度収支について、町報であったり、あるいは、インターネットで町のホームページ等で町として説明するお考えがあるのかどうかお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） そうですね。確かに、表に見えないというか、財源をどうやりくりしているかということについては、お知らせしたほうが親切だなという気はいたしますので、広報のほうに、今度の決算期が終了後の広報誌につきましては、御紹介するように指示をしたいと思っております。また、一般会計の歳出につきましては、繰出金とか、そういった部分が影響しております。例えば、病院なんか赤字決算になれば繰出金もふえるというようなこともあります。そういった部分も影響してるんだということも、ちょっとでも触れて御理解いただきたいという

ということで、その点につきましては、しっかり広報するように指示をしたいと思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） きちんと広報もしていただけるという答弁をいただけてうれしく思います。

次に、財政調整基金についてなんですけれども、同じ、その時の一般質問のやり取りの中で、基金については家の貯金と異なっていて、積み立てるだけではだめで、行政サービスとして住民に還元していくことも必要だというような答弁でした。もちろん、もっともなことなんですけれども、ただ、やはり、そう言われているのも、基金があるうちの話だと思います。基金が、もし仮に、完全になくなってしまったら、そういったことも言えなくなりますし、本当の、例えば、大規模な災害時など、本当に急な、突発的な事態にも、基金がなくなれば対応ができなくなってしまおうと思います。

そうした意味で、基金があるうちは行政サービスとして還元するということがいいんですけれども、どこかの、これ以上は基金を崩さないという一定のラインはあってしかるべきなのかなというふうに思っております。財政調整基金の残高ですけれども、平成26年度末には19億7,200万、平成27年度末は19億2,300万、28年度末は17億7,400万、29年度末は16億3,800万、そして、30年度末13億6,500万と減少してきているわけですが、町長として、これ以上は崩さないなというラインを想定しているところがあればお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） これ以上は崩さないというところについては、なかなか難しい部分があるなというふうに思いますけれども、私の感覚的には10億円ぐらいは持つておく必要があるのかなというふうには思っております。ただ、財政調整基金だけではなくて、公共施設整備基金であるとか、あるいは、ふるさと応援基金であるとか、そういった部分についても、目的を持って積み立てておくということで、基金全体で考えたいなというふうには思っております。

また、財政調整基金につきましては、国のほうとしては何にでも使える貯金みたいなもんだなという、先ほどお話がありましたけど、そのように言われる傾向がありまして、要は、財政調整基金をあまりに多額に持っているということは、それだけ余裕があるということですよ。国から支援がなくてもやっていけますよねということに、これから先、そういった傾向に、今、なりつつありますので、できるだけ公共施設等整備基金、あるいは、ふるさと応援基金等で目的を持った形での基金の積み立てということを余裕がある場合には、優先して考えたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（２番 板倉 哲男議員） 今年の３月の時の議会なんですけれども、その時も予算のところではいろいろ質疑させていただいたんですけれども、その時のやりとりで、町長は、来年度の予算策定に向けて支出の削減にも取り組むと。事業の見直しも進めていくというお考えも述べられておりました。ただ、同じく監査委員意見書の８３８ページに経常収支比率の推移が出ております。この経常収支比率は、つまり、人件費だったり、公債費だったり、なかなか縮減することが難しい予算の割合を示しているというふうに理解しているんですけれども、その割合がどんどん高くなっていると財政的にもなかなか余裕がない状況になっているわけなんですけれども、今後、支出を削減するために事業の見直しをするということで、以前、町長が述べられておられたわけなんですけれども、来年度の予算に向けて、どの程度の支出の削減ができるとお考えなのか。お考えがあればお教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 今の時点で、具体的な数値目標というのは示せる部分がないんですけれども、新年度の予算編成方針というのを今から策定し、再度、財政課のほうで作成していくわけなんですけれども、その時に、無駄な事業の歳出見直しということについては、できるだけやっつけていきたいとは思っておりますけれども、なかなか人件費の部分を早急に削っていくというのがなかなか難しい状況にあるなというのを感じております。

高速道路が、今から整備を進めていく中で、高速道路対策室という所も、今から、また、充実をさせていかなければなりませんし、新たな事業に、大型事業に取り組むという中で、鉄道公園化事業構想を打ち出させていただいたわけなんですけれども、これについても、今の推進体制の中で片手間でやっていけるという事業ではないなというふうに思っております。職員の配置についても、それなりに専属のプロジェクトチームみたいな形で立ち上げる必要があるのかなと思っております。できるだけ事業の見直しを事務事業の中で見直しをしていきたいと思っておりますけど、なかなか福祉費等につきましても、簡単には削減するというのは難しい部分もございます。

新年度予算策定の方針を出す段階で、また、財政課、あるいは、各課、庁舎内で検討しまして、事業の見直しを行うということで、可能な範囲で削減を図っていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（２番 板倉 哲男議員） 先ほどの質問内容の関連になるんですが、すいません。ちょっと前後であれなんですけど、８５０ページを見ましたら、性質別の決算の比較表になっておりま

す。こちらに義務的経費だったり、投資的経費とあるんですけど、やはり、ここにあるような義務的経費だったり、投資的経費、建設事業費だったり、災害復旧のところというのはなかなか削るところが難しい予算になるというふうに、私も思います。

そうすると、支出の削減の余地があるのかなというところが残りのその他の欄になるわけなんですけど、その他の中で一番大きなウェイトを占めているのが補助費等という項目になります。30年度決算額で、その補助費等が15億1,119万8,000円というふうになっております。私が以前調べた時に、平成13年度からのデータを持っているんですけども、平成13年度以降のデータで、15億という数字は最大の金額となっております。支出の削減をすとなったら、やはり、この補助費の見直しも必要なのかなと思うわけなんですけれども、町長にお伺いしたいと思いますけれども、近年、右肩上がり補助費が上がっているわけなんですけれども、補助費のところで見直しをお考えなのかどうか教えてください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 性質別につきましては、確かに、補助費等については上がっていると思います。補助費等につきましては、決算統計ベースでは負担金というのも入っていたと認識しておりますけれども、消防署が開設いたしまして、西臼杵広域行政事務組合に対する負担金というの、これは固定でどうしても払わざる得ない部分が新たに発生しているという部分で、27年度以降については、そういった部分は固定でも上がってしまっていると思います。

消防署等もお金を稼がないという部分がある中で、設立といいますか、開所されたわけでありまして、あと、繰出金の部分につきましても、病院等に対する繰出金もふえているというところが大きく、以前よりも伸びてきている部分かなというふうに思います。これは一般会計だけで考えるのではなくて、公営企業等につきましても、収支の改善を図っていくための方策を一緒に考えていながら、全体的な形で一般会計の負担を減らすということについて努力をしたいと。ただ、どうしても減らせない部分、先ほど言いましたようなところについては減らせない部分もあるということで御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 補助費の内訳については、町長がおっしゃられたとおり負担金だったり、あと、補助費だったり、あと、講師の謝金など報償費等も入っているそうなんですけれども、以前、私が補助金について一般質問で議題としたことがあります。補助金も、やはり、町のお金を使っているわけですので、どういった使途に使ったのかというところをきちんと町民の皆様に説明するということが必要になるのかなというふうに考えております。

一般質問で質問させていただいた内容としては、自治体によっては、この補助金の使途につい

てインターネット等で公表している自治体もあります。補助金の透明性を確保するということろで、やはり、高千穂町においても、インターネット等で補助金の使途について公表するべきではないかというような質問をしたわけなんですけれども、その際の答弁として、現在も公表していないけれども、ただ、公表しない理由も特にないと。補助金が適正に使われることを説明するために公表する意味もあるのかなということ、今後検討したいという答弁でした。

そこで、町長にお伺いしたいと思うんですが、今回、30年度決算を迎えるに当たって、この補助金の使途について、インターネット等で公表するお考えがあるのかどうかお聞かせください。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 多岐にわたるわけではありますけれども、現時点では、ちょっと即答ができない部分もありますけれども、前回も検討するという答弁だったということでもありますけれども、ちょっと、また、財政課と、あるいは、庁舎内で検討して御回答したいというふうに思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） ぜひ、前向きに検討いただければと思います。

次に、前に戻って、議案書の163ページになりますけれども、163ページに、ふるさと応援基金の繰入金のところがあります。30年度の決算として繰入金4,900万円ということになっています。このふるさと応援基金というのは、ふるさと納税の寄附で積み立てた基金ですけれども、それを4,900万取り崩しているわけなんですけれども、この4,900万の使途について、町長にお伺いしたいと思います。

○議長（工藤 博志議員） 町長。

○町長（甲斐 宗之町長） 4,900万円につきましては、目的に合った形での財源充当を指示したところでもありますけれども、全て、今、ちょっと詳細に覚えていないんですけれども、子育て支援にかかります医療費助成のほか…、すいません…、ちょっと、今、具体的な事業内容の御説明はできないんですけれども、目的に合った形での充当ということで4,900万円の取り崩しを指示したというところでもあります。資料が必要でありましたら、情報提供したいというふうに思います。

以上です。

○議長（工藤 博志議員） 板倉哲男議員。

○議員（2番 板倉 哲男議員） 今の私の質疑ですけれども、昨年の決算の時も、その時は、委員会で質疑した内容だったんですけれども、結局、寄附する人の気持ちとしては、寄附することで高千穂町がこういった事業に取り組んで、このように高千穂町がよりよい町になりましたとい

う報告を楽しみにされて寄附をしている方も多くおられると思います。ですので、昨年の決算の時の委員会でも、そのようなことを伝えさせていただいて、実際に、付帯意見をつけさせていただきました。

付帯意見の内容を読み上げますと、ふるさと応援基金取り崩し後の用途は、寄附者の意図を尊重するとともに、本町のPRとなるように努め、かつ、寄附額の増につなげることという意見を付帯意見とさせていただきました。ぜひ、寄附者の気持ちに添った基金の用途を、今後、検討いただければと思います。

以上で、終わります。

○議長（工藤 博志議員） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、ただいま質疑の終わりました議案の委員会付託を行います。

お諮りします。議案第47号については、お手元に配付の平成30年度一般会計決算審査特別委員会の設置（案）のとおり、議長を除く12名で構成する特別委員会を設置し、これに付託して審査することにしたいと思っております。なお、お手元に配付資料では、委員の定数11名となっておりますが、12名に訂正をお願いいたします。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 異議なしと認めます。よって、議案第47号は、平成30年度一般会計決算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決定しました。

次に、議案第48号から議案第61号までの議案14件については、お手元に配付の委員会付託一覧表のとおり、所管の常任委員会に付託して審査することにしたいと思っておりますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 博志議員） 異議なしと認めます。よって、議案第48号から議案第61号までの議案14件については、委員会付託一覧表のとおり付託して審査することに決定しました。

ただいま設置されました平成30年度一般会計決算審査特別委員会には、委員会条例第8条の規定により正副委員長を置き、委員会において互選することになっています。したがって、次の休憩中に、年長委員において委員会を開き、正副委員長の互選を行い、その結果の報告を願います。

ここで暫時休憩します。

午後1時40分休憩

.....

午後 1 時44分再開

○議長（工藤 博志議員） 休憩前に続き、会議を開きます。

平成30年度一般会計決算審査特別委員会における正副委員長が決定しましたので、その結果を報告します。委員長に佐藤久生議員、副委員長に磯貝助夫議員がそれぞれ選任されました。

○議長（工藤 博志議員） 以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしましたので、これにて散会します。

○事務局長（甲斐 順生事務局長） 御起立お願いします。一同、礼。

〔起立・礼〕

午後 1 時45分散会
